

礼拝堂に素晴らしい歌声が..!

●盛大にチャペル・コンサート!

今日18日は清々しい秋の一日、三輪昭彦実行委



員長(春日部地区浦高会会長)の下で春日部福音自由教会丘の上記念会堂をお借りして「チャペル・コンサート～歌声の集い～」を開催することができ、春日部地区浦高会会員をはじめ60名の方々に楽しんでいただくことができました。演者は**バリトン歌手の富**

田千種さん(ウィーン在住、浦高19回卒、ウィーン国立音楽大学オペラ科、リート科最優秀で卒業)、**伴奏者は西堂恵麻さん**(国立音大ピアノ科卒)でした。【写真①:コンサート・パンフレット、写真②:丘の上記念会堂チャペル外観】



午後2時30分、鳥井隆一郎さんの司会でコンサートは始まりました。

続いて、実行委員会事務局の私・香田から趣旨説明をさせていただきました。

* *

皆様、ようこそチャペル・コンサートにお越しいただき、ありがとうございました。本来であれば、実行委員長の三輪昭彦がご挨拶させていただくところですが、急遽外せない所用ができてしまったため、事務局の私から本日のコンサートの趣旨説明を行わせていただきます。私たちチャペル・コンサート実行委員会は、春日部地区浦高会を母体とした団体でございます。本同窓会は2001年に春日部市・野田市・越谷市・宮代町・杉戸町に在住・在勤する浦高卒業生を中心として設立されました。その後10周年を記念した社会貢献活動として市内川久保公園の一角をお借りして「環境づくり活動」として「春日部麗しの杜」を育てて参りました。3年間で75本の中木を植栽し、4m以上に育っている木もございます。そして、15周年に向けては、「人づくり活動」を行おうと考えております。

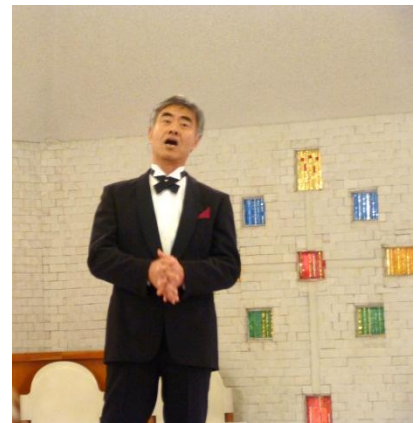
具体的には、本日の演者でいらっしゃる世界的なバリトン歌手の富田千種様にお越し、来年から3年間にわたり、春日部市内の中高生を対象として「オペラと歌曲のコンサート」を春日部高校センテニ



アルホールをお借りして開催することを予定しております。本日は、その前段として関係者の皆様に、富田様の歌声を愉しんでいただくという趣向でございます。約1時間半のコンサートと終了後にはお菓子とお抹茶を用意しておりますので、ゆっくりと秋の一日を愉しんでいただければ幸いです。また、会場をご提供いただきました春日部福音自由教会の皆様、山田豊牧師様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

* *

第1部の曲目は、シューベルト作曲「セレナーデ」、「楽に寄す」。ウェルナー作曲「野ばら」。ヘンデル作曲「ラルゴ」。ジルヒャー作曲「ローレライ」と続きました。私は最前列で拝聴



したので、頭上から音が降ってくるような錯覚に陥りながら、富田さんの素晴らしい世界に引き込まれて

ていました。

ここで、演目「聖母マリア」に関連して丘の上教会の**山田豊牧師さん**からお話を伺いました。

* *

本日は浦高会の皆様、おめでとうございます。

また、当記念会堂でコンサートを開催していただき本当にありがとうございます。5月に富田さんがお越しくださり、ここでコンサートを..とお話いただき、私も愉しみにしておりました。何回かの打合せをしている間に、「アベ・マリア」を歌うので聖母マリアについて話して欲しいという話が急に舞い込んでまいりまして、イエスの母、神の母ということで「聖母マリア」として呼ばれておりますが、聖書の中にあるマリアについてお話ししたいと思います。



イエス様が生まれると、マリアとヨセフはエルサレムの神殿にイエス様を連れて行きます。そこでシメオンという老人に出会います。シメオンは両親を祝福し、最後に不思議なことを母マリアに言いました。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」(ルカの福音書 2章 34, 35 節) と。

これは、母マリアが抱いている子が世界を照らす光になるということと、あなたの心を刺し貫く剣になるということでした。聖書には、そのことを心に留めていたと書かれています。そのことから、マリアというのはきっと内省的な深く物事を考える女性だったのではないかなと思います。

その言葉がやがて現実のものとなり、イエス様は世界を照らす光となるのですが、やがて十字架に架けられて処刑されることになるのです。一番の親不孝というのは、子が親よりも先に逝くということだと思います。マリアにとっては、まさに心を刺し貫く悲しみ、痛みであったと思います。

その後、十字架に架けられたイエス様が降ろされ、その亡骸を腕に抱くマリア像はピエタ (Pietà、慈悲などの意) と言われて彫刻や絵画などに残されています。マリアは確かに聖女とされていますが、私たちのように苦しみ、そして誰にも分かってもらえないような痛みをもった女性ではなかったかと思うのです。それがマリアの姿でした。【写真⑥:ミケランジェロ作ピエタ】

けれども、アヴェ・マリヤの最終行の日本語訳には「今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン」と綴られています。ああそうか、私たちが息を引き取るまでお祈りくださいというのは、マリアの祈りだったのかも知れないなと思いました。

またこんな場面があります。十字架に架けられたイエス様の周りにマリアや大勢の弟子たちがいたのですが、その中から、「イエス様は母とそばに立っている愛する弟子とを見て、母に『女の方。そこに、あなたの息子がいます』と言われた。それからその弟子に『そこに、あなたの母がいます』と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。」(ヨハネの福音書 19 章 26,27 節) と書かれています。これは、肉の親子を超えた神様になったイエス様が新しい家族を祈り、新しい家族の営みが始まる事をイエス様は語ったのではないかと思います。そんなことを考えながら、今日は世界三大アヴェ・マリヤを聴かせていただきたいと思います。

* *

シューベルト作曲の「アヴェ・マリア」はピアノ伴奏で、グノーとカッチーニの「アヴェ・マリア」はオルガンで愉しませていただきました。

山田牧師さんのお話と富田さんの歌により大きな感動をいただいて、3時13分休憩になりました。

第2部は、越谷達之助作曲の「初恋」。久石譲作曲の「Stand a lone」。新井満作曲の「千の風になって」と3曲が続き、ワーグナー作曲のオペラ「タンホイザーより『夕星の歌』」。ヴェルディ作曲のオペラ「ドン・カルロより『ロドリゴの死』」と盛り上がりました。

オペラについて、鳥井さんからの解説です。

オペラ「タンホイザー」はリヒャルト・ワーグナーが1845年に作曲したものです。ワーグナーのオペラのテーマは「愛/エロス」「死」「神の救済」です。このアリアタ星の歌は親友タンホイザーの恋人エリザベートに恋をするヴォルフラムによって歌われます。ドイツにあるチューリンゲンの領主の姪「エリザベート」に想いをよせる騎士ヴォルフラムが、彼女が別の騎士であるタンホイザーを愛していることを知り、自ら叶わぬ恋人をあきらめようとするのですが、遠征先でみた輝く夕星(金星のこと)を見つめながら、本当は彼女が好きでたまらないという苦しい心を抑えながら、タンホイザーとエリザベートの恋が実ることを願うアリアです。

オペラ「ドン・カルロ」はフリードリヒ・シラーの戯曲『ドン・カルロ』にヴェルディが1884年に作曲したもので、ここで歌われるロドリゴアリアはカトリックを強制する父親フィリップ2世に対して新教徒プロテスタントを守ろうとする王子ドン・カルロが幽閉されているところに親友ロドリゴが身代わりになり銃弾を受け、息を引き取る前に歌われます。

* *

アンコールは2曲でフィガロから「おれは町の何でも屋」、スペイン民謡から「グラナダ」でした。



そして全員での合唱。「里の秋」「赤とんぼ」「故郷」の3曲を歌いました。故郷の4番は感動でした。4時15

分、コンサートを終えてお菓子「栗拾い」とお抹茶でのひと時を愉しんでいただき、終了しました。

